平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501664		
法人名	財団法人大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム　ファミーユ	ユニット名	
所在地	福岡県大牟田市野添町20番地19		
自己評価作成日	平成年月日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号　博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年5月14日	評価確定日	平成25年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の意向に沿って、日々の生活を支援している。医療連携において、同一法人の病院（外来・訪問診療・入院）及び訪問看護ステーションと報告・連絡・相談を行い疾患の対応や健康管理を行っている。
地域とのつながりを保つ為、2ヶ月に1回の運営推進会議を開催して、地域を巻き込んだ防災の話合いを行うとともに、施設での利用者の生活状況の報告や、意見交換を行っている。
施設では、地域住民や市内全域から、電話での相談や施設へ直接来られての相談で、施設選びの方法や介護の悩みを聴いて、必要と思われる情報を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

大牟田市にある“グループホームファミーユ”の周辺は緑が多く、静かな環境の中で日々過ごされている。隣接する病院にリハビリに行かれる方もおられ、リハビリの行き帰りに鳥の鳴き声を聞きながらお花見をされたり、地域交流センターで行われる社交ダンスやフラダンスの見学を楽しまれている。ホーム内はリビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もあることから明るさも保てており、広いリビングではご利用者個々に思い思いの生活をされている。開設から9年が経過し、利用される方の重度化も見られ、身体介護も増えてきているが、職員は“自立支援”と言う気持ちを大切にした支援を続けている。日々の食事は職員が愛情いっぱいに作られており、ご利用者もフキの皮むきや、ホームの畑で採れた豆をむいたり、もやしのひげ取り等をされている。おやつの時間には昔風のおやつやお好み焼きなど、手作りのおやつを楽しんで頂く時もあり、少しでも“楽しむ”機会を作れるように職員もアイデアを出し合っている。今後も更に“家庭的な雰囲気”を大切にするためにも、食事の時間のあり方を検討していくと共に、職員個々の知識技術の向上に向けた更なる取り組みを始めていく予定にしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のんびり、ゆったりを基本に、利用者が安心して暮らせるよう、管理者、スタッフは、理念を共有し、実践している。	理念を再確認できるよう、介護の現場で管理者が話をしている。自立支援の視点を大切にしており、ご自分で食事や洗身ができるよう“待つケア”を行い、洗濯物たたみができる方には手伝ってもらっている。雑誌を読まれる方には家族が毎月購入して下さっており、ご本人らしい生活ができるように努めている。	管理者は職員の要望や勤務状況にも配慮した日々の業務を考えている。今後は更に職員のｽｷﾙｱｯﾌﾟに視点を置き、毎年の自己評価を職員全員で行うと共に、25年度の個々の目標も作りながら、職員のお力を発揮できる仕事環境を作られていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民は、施設の敷地を道路代わりに使用され、犬の散歩道や、健康増進の場となっている。	人情ﾈｯﾄﾜｰｸ（地域で支えあうﾈｯﾄﾜｰｸ）の世話人会に参加し、地域の行方不明者の捜索にも協力している。徘徊模擬訓練時や反省会等にはおにぎりを作り、活動支援を続けている。地域交流ｾﾝﾀｰのﾌﾗﾀﾞﾝｽｻｰｸﾙを見学したり、傾聴ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ（毎週）の来訪や中学生・高校生の体験実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域協力住民との交流や情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、利用者の状況報告、サービス内容、外部評価の報告を行い、意見をいただき、サービス向上を活かしている。	毎月の取り組みを報告して意見を頂くと共に、災害訓練の後には消防署の方に講和をして頂いている。夜の7時からの会議でもあり、家族の参加が少ない状況にあるが、今後も呼びかけを続けていく予定である。市の指導もあり、長崎のGH火災後、25年3月13日に地区の役員会で防災訓練の参加依頼も行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター・民生委員に参加していただいている。	管理者が申請時に市役所を訪問したり、介護スタッフ配置人数の問い合わせや運営基準の組織体制について、報告・連絡・相談をしている。２２年度から、管理者が大牟田市の介護サービス事業者協議会の広報担当をしており、市の方と一緒に活動している。安心介護相談員の方も月２回訪問して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーテイングや委員会にて、情報共有を行い、身体拘束をしないケアを理解してもらっている。	身体拘束廃止委員会を不定期で開いており、他の施設で行われた虐待事例等を新聞などで紹介している。ご本人の意思を尊重し、入院時に“つなぎ服”を着用していた方も退院日には外し、ご本人の心理を大切にした支援が行われた。感情が不安定な時には理由を把握し、一緒に散歩したり、思いを聞くように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会にて、検討し、虐待の捉えかたや、対応を正しく理解できる取り組みを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活支援事業について、説明を行っている。	年1回は職員向けの人権研修が行われ、権利擁護に関する内容も含まれている。入居時や面会時等の機会を利用して、家族の方々に制度の説明をすると共に、パンフレットも準備して、お渡ししている。制度の必要性の確認は管理者が行い、「制度を利用したい」と言う方には手続き支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時、細かな説明を行うように心がけ、理解していただけるよう、努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と意向や思いを語る場を積極的に図り対応している。	写真を掲載した“ﾌｧﾐｰﾕ便りﾐﾆ“を毎月家族に渡している。家族の面会時には主に管理者が日頃の状況を報告し、要望や悩みなどを伺うようにしている。病院受診に関する要望も頂き、なるべく叶えるように努めている。今後も家族の面会時には“笑顔で挨拶”を心がけ、家族の思いを引き出していく予定にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の調整や利用者の状況に応じ職員との話し合いで人員確保を、行っている。	新採用の職員から、「研修を受けたい」と言う要望や、「防災訓練に携わった事がなく、参加したい」等の要望があり、その都度叶えるようにしている。全体での集まりは少ないが、日々の業務の中で意見交換し、申し送りﾉｰﾄには日々の気づきが残され、日誌には体調変化等が書かれ、職員全員で情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って、職務を行えるよう、環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢に関係なく、採用している。社会参加や自己実現の権利の保障については、勤務に支障のないことが前提である。	ﾎｰﾑの役割や仕事（大変な事も）を説明しながら、“老人が好きかどうか”“介護職になろうと思った動機“などを確認している。“人としての優しさ”や“「はい」と言える素直な気持ちが持てるかどうか”を大切に面接している。職員からの紹介で人材が増えており、料理上手、ﾚｸが上手など個々の特技を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動の取り組みを行っている。	丁寧なケアが行われているかを常に確認しており、ご本人の意思を尊重し、日々の入浴支援や外出支援等を行っている。管理者は日々の業務の中で、“自分もいつか介護を受ける身になる”“自分がされたらどうか”と言う視点と共に、“できない所を手助けしている”と言う気持ちで接するように伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加を促している。資格取得ができるよう、勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者と、利用者の対応方法や技術について、協議している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望等を聴き、信頼関係を築くことに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族とも、介護のありかた、考え方に、不安や心配を抱いて入所されることもあり、不安や心配事の軽減が図れるよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への聴き取りや本人の訴え等、「その時」を見逃さないようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い助け合いながら、信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いと家族の思いが違っていたり、ずれていたりすることがあるので、その隙間や段差を埋めれるよう、支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで働いていた仲間の訪問や親戚等のつながりを支援している。	家族や親戚、以前の同僚などが気軽に来れるような雰囲気作りを大切にしており、訪問時はゆったり寛げるように努めている。お孫さんと一緒に馴染みの場所を散策される方もおられ、普段も家族の名前を出して、ご本人との会話を膨らませている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のつながりを支援している。気が合う人、合わない人それぞれ、テーブルの座席を考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、家族が施設訪問されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に自由選択できるよう支援している。	ｾﾝﾀｰ方式も活用し、ご本人の生活歴や思いを記録に残すと共に、自立支援の視点で職員全員でｱｾｽﾒﾝﾄしている。ケア時には優しい声かけを行い、心を開いてもらい、信頼関係を作るようにしている。 家族にも、ご本人の性格や興味のあった事を伺っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好にあわせて、本人の意向を尊重している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況にあわせて対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人の訴えや会話を通して、介護計画に反映させている。	介護計画の変更の必要性の検討を行い、介護支援専門員が計画の原案を作成している。洗濯物のしわ伸ばしやおしぼりたたみ、リハビリ、新聞読み、読書などの役割や楽しみも計画に盛り込まれ、24時間の活動(支援)シートも活用している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間での情報共有を行い、介護計画に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	聴き取りボランティアの活用を行い、利用者の精神的安定を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の防災訓練の参加や施設行事への参加により、交流を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護、訪問診療と連携し、対応している。	契約時に希望の医療機関に受診できる事を伝えている。通院介助は管理者や看護師が行い、受診結果は家族と共有できている。病状によっては家族も一緒に同行して頂き、必要時は医師より病状説明が行われている。医師からの指示は管理者が丁寧に記録し、職員との共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を見逃さず、状況報告を、訪問看護、訪問診療等につなげ、対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院より、情報提供を受け、文書、口頭ににて対応の仕方を確認する。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても、安心、安全に過ごせるよう、医師の指示のもと、対応している。	体調の変化でIVHや酸素が必要になるなど、医療の必要性が高くなった場合は、主治医から家族に病状や入院の必要性を説明している。看取りケアの経験はないが、ご本人や家族の意向を確認し、入院ギリギリまで点滴を続ける方もおられる。入院時に「ホームに帰りたい」と希望される方には、医療連携の在り方やホームでの生活が可能な状況かどうかの話し合いが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応ができるよう、マニュアル化している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回実施している。訓練には、消防署の立会いの下、行い、運営推進会議でも、話合いを行っている。	開設時から消防訓練に力を入れており、消防署職員や民生委員も参加して下さっている。訓練では身体で覚える事を大切に、初期消火や避難誘導を消防車到着までの7分でいかに行えるかの訓練を続けている。自動通報で病院等に通報される体制もあり、災害に備えて飲料水や缶詰などを準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権について、常にスタッフ同士、声を掛け合い、基本的人権の尊重をおこなっている。	優しい職員が多い。衣服の身だしなみや汚れがある時の手直しや着替えも、ご本人の思いを大切にしながら対応している。トイレ誘導時はトイレの外で待ったり、居室でのおむつ交換時はドアを閉めて行っている。理念にある通り、“ゆったり”という気持ちを持って対応できるよう、職員も日々感情コントロールを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が出やすい環境整備や言語や文書でない思いや希望を大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務に、利用者が会わされることがないよう、利用者の意向を大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれ感覚と家族の感覚に開きがあっても、本人の意向を重視している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ等、好き嫌いに応じて、品目を変えたり、している。	職員が3食とも愛情いっぱいに作られている。ご利用者も一緒にフキの皮むきや、ホームの畑で採れた豆をむいたり、もやしのひげ取り等の下ごしらえをされている。おやつの時間には、時折、いちごクリームムースや昔風のおやつ、お好み焼きなど、手作りのおやつを楽しんで頂いている。	介助が必要な方もおられ、職員は一緒に食事をする事が難しい日々が続いている。“家庭的な雰囲気”を大切にするためにも、職員も一緒に食事ができる方法を検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は重要なので、おやつにコーヒーや食事時に汁物をつける、ジュースをつける等配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを徹底して行い、利用者の方にも、理解しtいただけるように、声がけしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時トイレ誘導、定時トイレ誘導ともに、利用者の排泄パターンを考慮して対応している。	布パンツを利用し、自立されている方もおられる。ご本人のしぐさをキャッチし、必要に応じて時間毎にトイレ誘導を行い、尿意や便意が分からない場合は2～3時間毎にオムツ確認や交換をしている。オムツ使用の方にも昼間はリハビリパンツに替えてトイレ誘導し、夜間はP トイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量に考慮して、排泄しやすいよう対応している。下剤も、状況により、使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回以上であり、本人の希望を大切にして、入浴日が変更できるようにしている。	入浴を拒まれる場合は原因を確認し、声かけを工夫して入浴して頂いている。それ以外の日は毎日陰部洗浄を行うなど、感染予防にも努めている。できる所は自分で洗って頂き、要望に応じて同姓介助も行い、よもぎ湯等も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間や休息は自由に選択できるよう、支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を、スタッフ間で確認して、利用者には、説明を行い、服薬に協力していただく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人それぞれの楽しみや役割があり、そそれぞれの個別支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリ通いの中で、近隣の住民や朝市の人たちとの交流を楽しまれている。また、季節に応じた花々を鑑賞されるよう、外出を支援している。	火曜と金曜にホームの近くで朝市があり、ご利用者も買い物を楽しまれている。鳥の鳴き声を聞きながら、ホーム周辺の散歩やリハビリの帰りにはお花見をされている。地域交流センターで行われる社交ダンスやフラダンスの見学をされたり、24年度はイオンモールでの買い物も楽しまれた。家族と一緒に美容院や外食等に出かける等、個別の外出支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はされない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ファミーユ便りを毎月送付している。また、写真も、同封している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いため、開放感がある。	リビングと廊下の天井が吹き抜けであり、天窓もあることから明るさも保てている。職員が温湿度調整を行い、冬は床暖房を使用している。家族から頂いた胡蝶蘭をリビング゛に飾られており、季節の花もテーブルに飾り、季節を感じて頂いている。新しく入居した方には、ご本人が好まれる場所で過ごして頂く事で、次第に馴染みの空間になってきている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、気のあった人が寄り添い、語りあっておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、持ち物や家具を活用されている。	居室にはテレビ、衣装ケース、鏡、お気に入りの洋服や使い慣れた座イス等と共に、仏壇などの大切な物も居室に持ち込まれている。家族が撮影した自宅の花の写真や家族の写真も飾られ、窓からは緑の木々を見る事ができる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差なしの環境をつくっている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：財団法人大牟田医療協会　グループホーム　ファミーユ

目標達成計画

作成日：平成　25　年　5　月　20　日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】　注)「項目番号」の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		①安心と信頼に向けた関係と支援②その人らしい暮らしを続ける為のケアマネジメント③その人らしい暮らしを続ける為の日々の支援	①②③の項目に関する自己評価を、記入形式で、自己覚知を図れる。	①②③の記入用紙に、スタッフ全員記入作業を行う。記入後、課題解決に必要なことをスタッフ間で話合いを行う。	3　ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月